

- 2) 平井利明, 恩田亜沙子, 荒井直樹, 谷口 洋, 栗田正, 永吉陽子, 武隈桂子, 田部 宏, 佐々木寛. 神経症状出現の2日後に卵巣奇形腫を切除し, 非常に良好な経過を辿った抗NMDA受容体抗体陽性脳炎の28歳女性例. 第16回日本神経感染症学会学術集会. 東京, 11月.
- 3) 石田秀也, 萩原雅子, 平井利明, 谷口 洋, 栗田正. 大動脈解離による脾梗塞後にoverwhelming postsplenectomy infectionを呈した40歳男性例. 第199回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京, 11月.
- 4) 平井利明, 五味優子, 谷口 洋, 栗田 正, 濱口明彦. トピラマートとクロナゼパムにより治療が奏功したSUNCT症候群の1例. 第39回日本頭痛学会総会. さいたま, 11月.
- 5) 谷口 洋, 露無松里. 良好な経過中に嚥下障害のみの増悪を呈した重症筋無力症の1例. 第35回日本嚥下医学会総会. 高知, 2月.

腎臓・高血圧内科

- 主任教授：細谷 龍男 尿酸代謝・腎臓病学
 客員教授：栗山 哲 高血圧
(東京都済生会中央病院)
- 教授：大野 岩男 尿酸代謝・腎臓病学・膠原病
 客員教授：徳留 悟朗 高血圧
(東急病院)
- 客員教授：山本 裕康 腎臓病学・腎不全・腎移植
(厚木市立病院)
- 准教授：川村 哲也 腎臓病学, 特に, 糸球体腎炎の治療
 准教授：宇都宮保典 腎臓病学・高血圧性腎障害
 准教授：横山啓太郎 腎臓病学・透析療法・副甲状腺疾患
- 講師：小倉 誠 腎臓病学・透析療法
 講師：宮崎 陽一 腎臓病学・腎発生学
 講師：花岡 一成 腎臓病学・多発性嚢胞腎
 講師：池田 雅人 腎臓病学・透析療法
 講師：長谷川俊男 腎不全・透析療法
(神奈川県汐見台病院)
- 講師：早川 洋 腎臓病学・腎不全・水電解質異常
- 講師：石川 匡洋 腎臓病学・高血圧
(川口市立医療センター)
- 講師：小此木英男 腎臓病学・高血圧
(神奈川県リハビリテーション)
- 講師：横尾 隆 腎臓病学・腎再生
 講師：岡田 秀雄 循環器病学・高血圧
(神奈川県立汐見台病院)
- 講師：寺脇 博之 腎不全・透析療法

教育・研究概要

I. 腎臓病学に関する研究

1. IgA 腎症の長期腎予後を予測する組織評価法の確立

IgA 腎症の腎予後を予測する腎組織評価法を確立する目的で多施設共同研究を行った。その結果, 早期進行例では, 糸球体硬化および線維性半月体が, 一方, 晩期進行例では, 球状硬化と細胞性/線維性半月体はその腎予後を予測する独立した危険因子であった。さらに, 活動性病変を有する糸球体の割合により組織学的重症度を4段階に分けた結果, 軽症度(HG1)に比べ, 組織学的重症度が上がるごと腎不全への危険度が高くなることが示された。

2. ネフローゼ症候群に対する新規治療戦略の検討

今回、原発性ネフローゼ症候群において個人の糸球体密度がネフロン数を反映し、治療反応性を含む臨床経過に影響を与える可能性について検討した。その結果、微小変化型ネフローゼ症候群 (MCNS) では糸球体密度が低い症例 (低GD群) では高GD群と比較して、臨床病理学的特徴が治療抵抗性を示す巣状分節性糸球体硬化症に類似していることが示された。また、個人の糸球体密度は糸球体サイズ (容積) を規定する上で重要な役割を果たし、ステロイド治療反応性などの臨床経過にも影響を与えることが明らかになった。

3. 糸球体内皮細胞のPDGF発現に対するpodocyte VEGFの作用

一部の腎疾患においては、糸球体 VEGF の発現異常がその病態形成に重要な役割を担う事が報告されている。さらに、VEGF は内皮細胞の増殖・維持とともに、周囲の平滑筋細胞にも影響し、血管新生を調節する可能性が示唆されている。前年度から引き続き、inducible podocyte-specific VEGF transgenic mouse を解析したところ、内皮細胞増殖や内皮下腔開大とともに、メサンギウム細胞が減少あるいは欠如し、その結果、糸球体毛細血管ループの形成不全とポーマン囊への赤血球の漏出が認められた。また、VEGF 過剰発現マウスにおいては、糸球体内皮細胞におけるPV1の発現亢進およびfenestrationの抑制が認められ、未分化状態が維持されることが分かった。そこでメサンギウム細胞の遊走に必須な役割を担うPDGFの発現を内皮細胞で検討したところ、野生型に比較し、発現の顕著な低下が認められた。以上より、VEGFの発現調節の破綻は内皮細胞機能異常を介してメサンギウム細胞の異常も引き起こし、糸球体血管係蹄の構造変化に通ずる可能性が強く示唆された。

4. 両腎摘低血圧ラットの血圧に対する後腎移植の影響

我々のこれまでの研究により後腎は大網及び傍大動脈領域移植後に発育を継続し、活性型レニン (PRA) を産生することが示されている。今回、この移植後腎が産生する活性型レニンが宿主動物の血圧 (MAP) に与える影響を検討した。低血圧はdiltiazem hydrochlorideの経静脈的投与、及び体重の2%瀉血により誘導した。移植後腎はレニンmRNAを発現しており、後腎移植によりPRAは有意に上昇し血圧は維持された。PRAは後腎重量および血圧と有意な相関関係を認めた。この結果は、後腎移植は低血圧ラットのPRAを産生し血圧上昇に寄与することを示唆していた。

5. 二次性副甲状腺機能亢進症に関する研究

我々はCa感受受容体アゴニストがPTHの低下を介さずに、血清Ca濃度および血清P濃度を低下させることを明らかにした。さらにCa感受受容体アゴニストが多彩な生理作用を有するsphingolipid sphingosine 1-phosphate (S1P) を低下させることを発見した。基礎研究では、分泌型 α Klothoとミネラル代謝の関連を解析して血清P濃度と相関することを見出した。さらにKlothoに関する骨血管相関について研究を進めている。透析患者で分泌型 α Klotho (s α Kl) とミネラル代謝の関連を解析して血清P濃度と相関することを見出した。

6. 腹膜透析に関する研究

腹膜透析患者に腹腔鏡を行い、硬化性腹膜炎の進展機序を研究している。その結果から腹膜炎がリスクファクターであることを見出し、PD透析液の中性化によって起因菌が異なるのではないかという仮説を立案した。

7. 腎移植に関する研究

抗体関連型拒絶反応では傍尿細管毛細血管 (PTC) 内皮細胞にリン酸化c-Jun (p-c-Jun) が強く発現しすることに注目し、PTC内皮におけるc-Jun活性と移植腎の線維化との関連性を報告した。

8. 多発性嚢胞腎に関する研究

Madin-Darby canine kidney (MDCK) 細胞を用い電気生理的にCaの挙動を評価し、oscillationと嚢胞形成のメカニズムを検討している。

II. 高血圧・尿酸代謝に関する研究

1. The JOINT study: The Jikei Optimal Anti-hypertensive Treatment Study とそのサブ解析

The JOINT studyは治療抵抗性高血圧に対するARB (Losartan) + サイアザイド利尿薬 (HCTZ) の併用療法の評価を目的とした、大規模前向き介入試験である。尿酸代謝面に注目したThe JOINT subanalysisでは、Losartan+HCTZ合剤は尿酸値7mg/dl以上の高尿酸群において、明らかな尿酸値低下作用を示した。

2. CKD患者における降圧療法の腎局所RAS亢進改善作用

本研究ではARB+HCTZにより、確実な降圧療法を計る事が腎臓内の活性化されたRASを改善するか否かを検討した。腎臓内局所RAS活性のsurrogate markerとしては尿中アンジオテンシノーゲン (AGT) を採用した。その結果、確実な降圧療法を行いことにより、尿蛋白の減少と共に尿

中 AGT の著明な減少が認められた。

3. 慢性腎臓病ステージ 5D 患者におけるアリスキレンの効果

レニン阻害薬、アリスキレンの降圧効果やプロレニンに対する影響、あるいは RAS 活性による降圧作用の heterogeneity などを検討する多施設共同臨床研究を行った。本試験は、血液透析患者約 100 例を対象にして、アリスキレン群とアムロジピン群にランダム化したものである。その結果、アムロジピン群に比しアリスキレンでは ANP 低下作用、血漿レニン活性抑制などがみられた。

4. CKD 患者の血圧変動を ABPM により評価：modality の差異による検討

CKD において高血圧は最も重要な進展因子であるが、ABPM を用いた検討は少ない。本研究では CKD を保存期、血液透析、腹膜透析の三群に分けて ABPM にて血圧日内変動を解析した。その結果、三者の modality の異なる治療法では、血圧-心拍数連関に明確な差異が存在した。すなわち、血圧を Y 軸に心拍数を X 軸にして相関を検討すると、保存期、血液透析、腹膜透析の順に傾きが大きくなる。これは自律神経、動脈硬化病変などによりもたらされることが明らかとなった。

5. 血液透析中のレニン-アンジオテンシン系 (RAS) の変化における糖尿病と RAS 抑制薬の関与

透析患者の RAS ホルモンの動態が透析前後で RAS 抑制薬 (RAS-I) の内服によりどのように影響されるのかを中心に検討した。その結果、透析時の血圧の変動は、除水ではなく、透析により喪失または反応性に変化する RAS ホルモンの動態により調節されることが考えられた。また、RAS-I 非内服患者で障害されている除水による RAS ホルモンの反応が、RAS-I 内服により改善されることから、RAS-I 自体が RAS modulator として修飾している可能性が示唆された。また、もともと RAS の調節機構が破綻していると考えられる透析患者の中でも、糖尿病の存在がさらにその破綻を助長し、その状況下でも RAS-I が破綻を抑制していることが考えられた。

6. IgA 腎症における尿酸排泄に対する塩分摂取と腎病理所見の影響

IgA 腎症患者を対象に、尿中尿酸排泄に対する塩分感受性と腎生検所見の影響を検討した。その結果、症例全体では尿酸排泄と塩分排泄には相関を認めたが、個々の症例では尿酸排泄が塩分排泄量に依存する症例と依存しない症例に分かれた。尿酸排泄塩分

依存型では、単位塩分排泄あたりの尿酸クリアランス増加率は CCr と負の相関を認め、腎間質障害度と正の相関が認められた。一方、塩分非依存型では、これらの関係は認められなかった。

「点検・評価」

腎臓病においては、腎炎およびネフローゼ症候群の治療反応と腎予後の予測因子について、さらに透析および腎移植に関する臨床研究と培養細胞や実験モデルを用いた再生医療に関する基礎的研究を行った。その研究成果は国内・国外の学会発表し、さらに多くの海外学術雑誌に掲載された。また、高血圧および尿酸代謝では慢性腎臓病患者における RA 系の関与と抑制薬に関する臨床研究、さらに尿酸代謝に関する研究を行い、その結果は国際学会および学術専門誌に掲載された。今後とも臨床研究と基礎的研究を組み合わせることでその機序を明らかにしていくことが重要であると考えられる。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Hosoya T, Kuriyama S, Ohno I, Kawamura T, Ogura M, Ikeda M, Ishikawa M, Hayashi F, Kanai T, Tomonari H, Soejima M, Akaba K, Tokudome G, Endo S, Fukui A, Gomi H, Hamaguchi A, Hanaoka K, Hara Y, Hara Y, Hasegawa T, Hayakawa H, Hikida M, Hirano K, Horiguchi M, Hosoya M, Ichida K, Imai T, Ishii T, Ishikawa H, Kameda C, Kasai T, Kobayashi A, Kobayashi H, Kurashige M, Kusama Y, Maezawa H, Maezawa Y, Maruyama Y, Matsuda H, Matsuo N, Matsuo T, Miura Y, Miyajima M, Miyakawa M, Miyazaki Y, Mizuguchi M, Nakao M, Nokano H, Ohkido I, Ohtsuka Y, Okada K, Okamoto H, Okonogi H, Saikawa H, Saito H, Sekiguchi C, Suetsugu Y, Sugano N, Suzuki T, Suzuki T, Takahashi H, Takahashi Y, Takamizawa S, Takane K, Morita T, Takazoe K, Tanaka H, Tanaka S, Terawaki H, Toyoshima R, Tsuboi N, Udagawa T, Ueda H, Ueda Y, Uetake M, Unemura S, Utsunomiya M, Utsunomiya Y, Yamada T, Yamada Y, Yamaguchi Y, Yamamoto H, Yokoo T, Yokoyama K, Yonezawa H, Yoshida H, Yoshida M, Yoshizawa T. Antihypertensive effect of a fixed-dose combination of losartan/hydrochlorothiazide in patients with uncontrolled hypertension: a multicenter study. Clin Exp Nephrol 2012; 16(2): 269-78. Epub 2011 Nov 30.
- 2) Tsuboi N, Kawamura T, Miyazaki Y, Utsunomiya Y, Hosoya T. Low glomerular density is a risk factor for

- progression in idiopathic membranous nephropathy. *Nephrol Dial Transplant* 2011 ; 26(11) : 3555-60.
- 3) Koike K, Tsuboi N, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T. Glomerular density-associated changes in clinicopathological features of minimal change nephrotic syndrome in adults. *Am J Nephrol* 2011 ; 34(6) : 542-8.
 - 4) Matsumoto K, Yokoo T, Yokote S, Utsunomiya Y, Ohashi T, Hosoya T. Functional development of a transplanted embryonic kidney : effect of transplantation site. *J Nephrol* 2012 ; 25(1) : 50-5.
 - 5) Yokote S, Yokoo T, Matsumoto K, Ohkido I, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T. Metanephros transplantation inhibits the progression of vascular calcification in rats with adenine-induced renal failure. *Nephron Exp Nephrol* 2012 ; 120(1) : e32-40.
 - 6) Ohno I. Relationship between hyperuricemia and chronic kidney disease. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids* 2011 ; 30(12) : 1039-44.
 - 7) Tsuboi N, Kawamura T, Okonogi H, Ishii T, Hosoya T. The long-term antiproteinuric effect of eplerenone, a selective aldosterone blocker, in patients with non-diabetic chronic kidney disease. *J Renin Angiotensin Aldosterone Syst* 2012 ; 13(1) : 113-7.
 - 8) Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hosoya T. Guidelines and medication compliance. *Kidney Int* 2012 ; 81(6) : 595.
 - 9) Mitome J, Yamamoto H, Saito M, Yokoyama K, Marumo K, Hosoya T. Nonenzymatic cross-linking pentosidine increase in bone collagen and are associated with disorders of bone mineralization in dialysis patients. *Calcif Tissue Int* 2011 ; 88(6) : 521-9.
 - 10) Ogura M, Yamada Y, Terawaki H, Hamaguchi A, Kimura Y (Shin Kashiwa Clinic), Hosoya T. Home systolic blood pressure on the morning of dialysis days has prognostic impact for hypertensive hemodialysis patients. *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16(3) : 427-32. Epub 2011 Dec 20.
 - 11) Maruyama Y, Yoshida H, Uchino S, Yokoyama K, Yamamoto H, Takinami M, Hosoya T. Nafamostat mesilate as an anticoagulant during continuous venovenous hemodialysis : a three-year retrospective cohort study. *Int J Artif Organs* 2011 ; 34(7) : 571-6.
 - 12) Kobayashi A, Takahashi T (Vanderbilt Univ. Medical Center), Horita S¹⁾, Yamamoto I, Yamamoto H, Tanabe K¹⁾ (¹Tokyo Women's Medical Univ.), Yamaguchi Y (Yamaguchi Pathology Laboratory), Hosoya T. Clinicopathological impacts of activated transcription factor c-Jun in peritubular capillary endothelial cells in chronic antibody-mediated rejection after kidney transplantation. *Clin Nephrol* 2012 ; 77(1) : 32-9.
 - 13) Yaginuma T, Yamamoto H, Mitome J, Kobayashi A, Yamamoto I, Tanno Y, Hayakawa H, Miyazaki Y, Yokoyama K, Utsunomiya Y, Miki J, Yamada H, Furuta N, Yamaguchi Y, Hosoya T. Successful treatment of nephrotic syndrome caused by recurrent IgA nephropathy with chronic active antibody-mediated rejection three years after kidney transplantation. *Clin Transplant* 2011 ; Suppl. 23 : 28-33.
 - 14) Hosoya T, Ohno I. A repeated oral administration study of febuxostat (TMX-67), a non-purine-selective inhibitor of xanthine oxidase, in patients with impaired renal function in Japan : pharmacokinetic and pharmacodynamic study. *J Clin Rheumatol* 2011 ; 17(4 Suppl. 2) : S27-34.
 - 15) Tsuboi N, Kawamura T, Okonogi H, Ishii T, Utsunomiya Y, Hosoya T. Discordant clinicopathological features in monozygotic twins with IgA nephropathy. *Nephrol Dial Transplant* 2011 ; 26(12) : 4146-8.
 - 16) Okabe M, Tsuboi N, Yokoo T, Miyazaki Y, Utsunomiya Y, Hosoya T. A case of idiopathic membranoproliferative glomerulonephritis with a transient glomerular deposition of nephritis-associated plasmin receptor antigen. *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16(2) : 337-41. Epub 2011 Dec 20.
 - 17) Udagawa T, Hanaoka K, Kawamura M, Hosoya T. Characteristics spontaneous calcium oscillations in renal tubular epithelial cells. *Clin Exp Nephrol* 2012 ; 16(3) : 389-98. Epub 2012 Jan 26.
 - 18) 末次靖子, 徳留悟朗, 菅野直希, 吉澤威勇, 遠藤 聡, 原洋一郎, 高根紘希, 栗山 哲, 細谷龍男. IgA 腎症患者における加重型妊娠高血圧腎症の発症予測因子の検討. *日腎会誌* 2011 ; 53(8) : 1139-49.
 - 19) 倉重眞大, 横尾 隆, 宮崎陽一, 坪井伸夫, 早川 洋, 宇都宮保典, 細谷龍男. Rituximab 併用化学療法に反応した MALT リンパ腫関連クリオグロブリン陽性膜性増殖性糸球体腎炎の 1 例. *日内会誌* 2011 ; 100(4) : 1054-7.
 - 20) 木村敬太, 丹野有道, 小野杏子, 倉重眞大, 鈴木孝秀, 大城戸一郎, 早川 洋, 横山啓太郎, 山本裕康, 細谷龍男. 食道アカラシア手術後に著明な高ナトリウム血症を呈し顕在化した尿崩症の 1 例. *日内会誌* 2011 ; 100(6) : 1648-50.
 - 21) 山田 琢, 吉澤威勇, 上田裕之, 大塚泰史, 加藤尚彦, 栗山 哲, 細谷龍男. Calciphylaxis による下腿有痛性多発性潰瘍に対してチオ硫酸ナトリウムが奏効した長期血液透析患者の 1 例. *日透析医学会誌* 2011 ; 44(7) : 643-8.

- 22) 福井 亮, 宇田川崇, 岡部匡裕, 森下将充, 谷口幹太 (富士市立中央病院), 笠井健司, 細谷龍男. 栄養と食事/病態と代謝異常/骨・ミネラル代謝異常/貧血精神症状をきたした1型糖尿病の2例. 腎と透析 2011; 71(別冊腹膜透析 2011): 353-4.
- 23) 寺脇博之, 中野広文, 小野靖之 (かしま病院), 山口 裕 (山口病理組織研究所), 小倉 誠, 細谷龍男. 維持血液透析患者に発症し, 治療に抵抗した水様性下痢の1例. 臨透析 2011; 27(12): 1625-31.
- 24) 大野岩男, 山本哲也, 上田孝典, 藤森 新, 伏見真彦, 坂本龍祐, 細谷龍男. 痛風を含む高尿酸血症患者を対象とした新規キサンチンオキシダーゼ阻害剤 topiroxostat (FYX-051) の前期第2相試験. 痛風と核酸代謝 2011; 35(1): 53.

II. 総 説

- 1) Yokoo T, Matsumoto K, Yokote S. Potential use of stem cells for kidney regeneration. *Int J Nephrol* 2011; 2011: 591731.
- 2) 細谷龍男. 高尿酸血症と高血圧, CKD, メタボリックシンドロームの関係. 港区医師会会報 2011; 127: 67-72.
- 3) 細谷龍男. 【高尿酸血症】総論 高尿酸血症と臓器障害. *Bio Clin* 2012; 27(2): 122-3.
- 4) 細谷龍男. CKDと高尿酸血症. 日妊娠高血圧会誌 2012; 19: 33-8.
- 5) 大野岩男. 高尿酸血症と慢性腎臓病 (CKD). 内分泌糖尿代謝内科 2011; 33(5): 475-84.
- 6) 宇都宮保典. IgA腎症に関する臨床上の問題点 治療法の選択基準 「IgA腎症診療指針 (第3版)」の観点から. 炎症と免疫 2011; 19(4): 422-8.
- 7) 小倉 誠. 【血圧・血糖・脂質マネジメント 多面的効果を考慮した処方を考える】血圧・血糖・脂質管理の Key Drugs 多面的効果を考慮したより効果的な使い方 レニン阻害薬. 薬局 2011; 62(5): 2448-52.
- 8) 花岡一成. 【多発性嚢胞腎】常染色体優性多発性嚢胞腎 疫学と臨床. 腎臓 2012; 34(3): 45-9.
- 9) 西川 元, 大野岩男, 細谷龍男. 【慢性腎臓病CKDの実地診療 その過去・現在・未来】セミナー/CKDの的確な実地診療をすすめるために CKDと相互に関連する疾病・病態 実地医家はどのように着目し対処するのか 高尿酸血症とCKD. *Med Pract* 2011; 28(6): 1045-9.
- 10) 横尾 隆. 【慢性腎臓病CKDの実地診療 その過去・現在・未来】トピックス CKDにおける再生医療. *Med Pract* 2011; 28(6): 1071-2.
- Kawamura K, Hosoya T. Low glomerular density with glomerulomegaly characterizes renal biopsies of obesity-related glomerulopathy. Annual Meeting of American Society of Nephrology. Philadelphia, Nov.
- 2) Ohkido I, Yokoyama K, Hasegawa T, Hosoya T. Sevelamer hydrochloride inhibits aortic calcification regardless of serum phosphorus concentrations. *Kidney Week 2011: American Society of Nephrology 44th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 3) Ito H, Sano M¹⁾, Utsunomiya Y, Fukuda K¹⁾ (¹Keio Univ.), Hosoya T. Lipocalin-type PGD2 synthase (L-PGDS) play a key role in kidney interstitial fibrosis via the activation of Th2-dominant inflammatory response. *Kidney Week 2011: American Society of Nephrology 44th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 4) Yokote S, Yokoo T, Matsumoto K, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T. Metanephros transplantation contributes to maintaining blood pressure in diltiazem treated anephric rats. *Kidney Week 2011: American Society of Nephrology 44th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 5) Matsumoto K, Yokoo T, Yokote S, Kawamura T, Hosoya T, Ohashi T, Tsuji O, Okano JH, Okano H, Kobayashi E. Autologous bone marrow cells differentiate into EPO producing cells in xeno-metanephroi transplanted into fate controlled ER-E2F1 mice. *World Congress of Nephrology 2011*. Vancouver, Apr.
- 6) 横尾 隆. 臓器再生医療の最前線. 日本歯科大学大学院生命歯学研究科セミナー. 東京, 5月.
- 7) 菅野直希, 栗山 哲, 原洋一郎, 遠藤 聡, 吉澤威勇, 末次靖子, 高根紘希, 近藤 誠, 徳留悟朗, 細谷龍男. 血液透析中の血圧調節におけるレニン-アンジオテンシン系(RAS)の関与とRAS抑制薬による修飾. 第108回日本内科学会総会. 東京 (誌上開催), 4月.
- 8) 清水昭博, 宮田敏夫¹⁾, 田口恵子¹⁾, 山本雅之¹⁾ (¹東北大学), 細谷龍男, 市川家國²⁾, 深川雅史²⁾, 松阪泰二²⁾ (²東海大学). Keap1抑制による糸球体硬化症の軽減. 第54回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 6月.
- 9) 吉田 啓, 横山啓太郎, 山本 泉, 松尾七重, 花岡一成, 細谷龍男. 血液透析患者におけるシャント肢と非シャント肢の動脈径および動脈血流量の比較. 第56回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜, 6月.
- 10) 小倉 誠, 寺脇博之, 木村靖夫 (新柏クリニック), 細谷龍男. (シンポジウム6: 透析患者の血圧管理) 血液透析およびCAPD患者における血圧管理～早期家庭血圧は心肥大および心血管イベントと関連する. 第56回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜, 6月. [日透析医学会誌 2011; 44(Suppl. 1): 289]

III. 学会発表

- 1) Tsuboi N, Utsunomiya Y, Kanzaki G, Koike K,

- 11) 倉重眞大, 花岡一成, 岡田秀雄, 小坂直之, 中島章雄, 中田泰之, 白井 泉, 小池健太郎, 下條正子 (神奈川県立汐見台病院), 宇田川崇, 長谷川俊男, 横山啓太郎, 川口良人, 細谷龍男. 多発性嚢胞腎における心臓超音波所見の検討. 第54回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 6月. [日腎会誌 2011: 53(3): 449]
- 12) 宇都宮保典, 川村哲也, 細谷龍男. (ワークショップ1:糸球体腎炎の新しい治療法) RA系を標的とした糸球体腎炎治療の新戦略. 第41回日本腎臓学会東部学術大会. 東京, 10月.
- 13) Nakao M, Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hayakawa H, Ikeda M, Yamamoto H, Hosoya T. PD-associated peritonitis as a risk factor for the development of encapsulating peritoneal sclerosis. *Kidney Week 2011: American Society of Nephrology 44th Annual Meeting*. Philadelphia, Nov.
- 14) 松尾七重, 丸山之雄, 山本 泉, 三留 淳, 飯田里菜子, 吉田 啓, 丹野有道, 大城戸一郎, 寺脇博之, 早川 洋, 花岡一成, 山本裕康, 横山啓太郎, 細谷龍男. PD+HD併用療法患者とPD単独療法患者のADMA値推移の比較. 第17回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. さいたま, 9月.
- 15) 丹野有道, 中尾正嗣, 宇田川崇, 大城戸一郎, 早川洋, 山本裕康, 横山啓太郎, 細谷龍男. 腹膜透析継続に伴う腹膜傷害の不均一性-離脱時の腹腔鏡所見より-. 第17回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. さいたま, 9月.
- 16) 大城戸一郎, 横山啓太郎. 血中Klotho蛋白の臨床的意義と今後の展望. 第56回日本透析医学会学術集会・総会. 横浜, 6月.
- 17) 眞船 華, 丹野有道, 小林賛光, 西川 元, 坪井伸夫, 横尾 隆, 早川 洋, 宮崎陽一, 山本裕康, 横山啓太郎, 細谷龍男, 山口 裕 (山口病理組織研究所). BKV腎症及びCMV感染にplasma cell-rich rejectionを合併した1例. 第45回日本臨床腎移植学会. 軽井沢, 2月.
- 18) 小野杏子, 丹野有道, 早川 洋, 山本裕康, 中尾正嗣, 柳沼樹宏, 横山啓太郎, 小池祐介, 三木 淳, 山田裕紀, 古田 希, 細谷龍男. 腹膜透析歴6年で腎移植後に被嚢性腹膜硬化症を発症した1例. 第45回日本臨床腎移植学会. 軽井沢, 2月.
- 19) 中尾正嗣, 早川 洋, 山本裕康, 丹野有道, 堀野哲也, 熊谷正広, 浅井隆志 (慶應義塾大), 細谷龍男. 免疫抑制療法の強化を契機に眼toxoplasma (Tp)症を合併した1例. 第45回日本臨床腎移植学会. 軽井沢, 2月.
- 20) 樋口健次, 下地大輔, 斉藤愛子, 藤田吾郎, 佐藤信一, 宇都宮保典, 安保雅博, 細谷龍男. 保存期慢性腎臓病患者に対する長期運動療法の効果. 第54回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 6月.
- 21) 大野岩男, 細谷龍男. (公開セッション4:CKDの早期発見・予防・治療標準化・発展阻止に関する調査研究) 3.高齢者における薬物性腎障害の調査. 第54回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 6月.

IV. 著 書

- 1) 大野岩男, 細谷龍男. 3. 健診所見の読み方と対応 7. 尿酸値の異常と対応. 小川哲平 (相模原中央病院), 猿田享男 (慶應義塾大学), 田村政紀 (PL東京健康管理センター) 編. 日野原重明 (聖路加国際病院) 監修. 健診・人間ドックハンドブック. 改訂第4版. 東京: 中外医学社, 2011. p.140-6.
- 2) 宇都宮保典, 細谷龍男. 第6章: RPGNの治療(1) 初期治療指針と病型ごとの初期治療 Q42. 半月体形成性壊死性糸球体腎炎に対する抗凝固薬, 抗血小板薬の注意点を教えてください. 松尾清一 (名古屋大学), 山縣邦弘 (筑波大学) 監修. 急速進行性糸球体腎炎診療ガイドQ&A. 東京: 診断と治療社, 2011. p.101-2.
- 3) 宇都宮保典. IV. IgA腎症の治療 C. ACE阻害薬とアンジオテンシンII受容体拮抗薬. 富野康日己 (順天堂大学) 編. IgA腎症診療マニュアル:エビデンスに基づいた診断と治療. 改訂第3版. 東京: 南江堂, 2011. p.144-65.
- 4) 大城戸一郎. 第3章: 腹膜透析管理基準 11.PDとCKD-MBD. 細谷龍男監修. 腹膜透析療法マニュアル. 東京: 東京医学社, 2011. p.164-73.

V. その他

- 1) 細谷龍男. インタビュー: 40年ぶり新薬, 痛風・高尿酸血症治療のこれから-病態と管理. e-mediceo.com. 2011.11.16.
- 2) 田尻 進, 石井健夫, 石川匡洋, 宇都宮保典, 細谷龍男. ステロイド治療寛解後に妊娠を契機にネフローゼ症候群を呈したIgA腎症の一例. 第66回東京腎生検カンファレンス. 東京, 9月.
- 3) 細谷龍男. CKDと高尿酸血症. 京都府医師会学術講演会. 京都, 3月.
- 4) 大野岩男, 細谷龍男. 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン. 「CKDの早期発見, 予防, 治療標準化, 進展阻止に関する調査研究」研究成果発表会. 東京, 1月.